

公益財団法人ちばのWA地域づくり基金
2019年度 事業報告書
(2019年4月1日～2020年3月31日)

【2019年度概要と成果】

- ・ 2019年度は、台風や豪雨、年度末には新型コロナウイルス感染拡大など、大きな災害に見舞われた年となりました。そのような中、迅速に災害支援基金を設置し、全国の被災地を応援したい人の受け皿となり、被災者支援に取り組む組織へ助成ができたことは、寄付者とNPO、被災者とNPOのつなぎ役としての機能を果たすことができたと考えます。また、被災者・被災地のニーズを把握し、適切に助成を実施していく取り組みが評価され、大口の寄付をお預かりすることにつながりました。災害時の対応、特設サイト構築等については、全国コミュニティ財団協会の全面協力をいただきました。
- ・ 財政面では特に運営のための資金調達に課題が残ります。今後は事業収入、助成金、寄付、サポーターの獲得、包括的な支援プログラム・事業の設計をした上での資金調達を進めていきます。

【公益目的事業：公益活動支援助成事業】

1. 助成事業

(1) 事業指定助成プログラム

事業計画に基づき、6月より随時公募を行いました。応募した1団体に対して、10月、11月の2回、ビジョン、ミッション策定等の研修を実施し、寄付募集については見送りました。

(2) テーマ・地域型基金

ア. 子どもの今と未来を支える基金（継続）

未来を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会をつくるために当財団が設置したプログラムで、リーフレットやウェブサイトを活用し個人寄付や寄付付き商品による寄付を募りました。助成は実施していません。

2018年度助成団体のうち、事業の変更があったため一部助成金の返還があり、基金に戻し入れました。

イ. まつど子育てささえあい基金（新規）

「まつどでつながるプロジェクト」の活動をもとに、松戸市の親子の孤立を予防、制度の狭間にいる人に対する民間の取り組みを支援するための基金を設置し、リーフレットやウェブサイトを活用し、寄付を募りました。助成は実施していません。

ウ. 2019千葉県台風・豪雨災害支援基金（新規）

9月、10月の台風15号、19号、10月豪雨による千葉県内の被災地における支援活動を支えるための基金を設置しました。ウェブサイトやチラシを活用し、全国からの寄付を受け付け、3月末時点で20事業に助成を実施しました。

・助成先：

団体名・所在地	主な活動地域	活動内容	助成金額
特定非営利活動法人ディーブデモクラシー・センター（鴨川市）	千葉県南部	台風15号被災地域安房7市町でのブルーシートのかげ直し、倒木処理、生活相談などの支援活動と技術支援者養成	100,000円
特定非営利活動法人災害救援レスキューアシスト（鴨川市）	鴨川市	茅葺き屋根の被災家屋技術支援活動	100,000円
特定非営利活動法人光と風（旭市）	旭市	旭市内の復旧・復興の取材調査と「復興かわら版」発行	80,000円
nigiwai（にぎわい）（富津市）	富津市	子ども・母親視点での避難所の環境改善調査と「避難所キット」作成配布支援	100,000円
富山地区若者地域団体 i.PLANNER（南房総市）	南房総市	長期化する屋根の補修までの代用としてアシスト瓦を地域の人たちとつくる活動	100,000円
特定非営利活動法人おせっ会（館山市）	館山市	台風19号で破損したブルーシートの張替えに強度を持たせるため、必要な資材（金具、木材）を購入し、屋根の補修までの救済支援をする	100,000円
災害ボランティア団体らしんばん（佐倉市）	佐倉市・八街市	台風や大雨で被害を受けた地域の緊急復旧支援活動	100,000円
特定非営利活動法人千葉自然学校（千葉市）	南房総市	南房総市富浦町のびわ山・畑の復旧支援活動とボランティアコーディネート	100,000円
特定非営利活動法人たてやま・海辺の鑑定団（館山市）	館山市	「里海博2019」開催に合わせ台風15号による沖ノ島の被災状況を伝える写真展を開催する	100,000円
つなぐCHIBAプロジェクト（千葉市）	千葉県中南部	千葉南部の復旧・復興に向けた支援・交流促進と支援団体情報共有会議等の運営支援	100,000円
ボランティアグループB3（南房総市）	鋸南町	在宅避難者の生活支援（物資配布、炊き出し）と孤立防止のためのサロン開催	100,000円
ボランティアグループ Laugh and Happiness（千葉市）	富津市	災害被災地でのマッサージ等のコーディネート・復興イベント開催等、人々の心のケアを主とする活動	100,000円
災害ボランティア団体らしんばん（佐倉市）	佐倉市・八街市・富津市	倒木の伐採ボランティアを実施するための伐採等業務（チェーンソー）特別教育の開催	100,000円
柏の葉サイエンスエデュケーションラボ（柏市）	勝浦市	勝浦市北部において地元子ども達へ出張科学館事業「道の理科室」を実施する。	100,000円
もばら街育プロジェクト（茂原市）	茂原市	「Charity NEGI Matsuri（チャリティねぎまつり）」に合わせた台風15号・19号及び10.25豪雨災害で被害を受けた農業生産者の被災状況を伝える写真展の開催	100,000円
ボランティアグループB3（南房総市）	鋸南町	被災者救済のための生活支援、相談実施とボランティアコーディネート、スキルアップ学習会の開催	98,000円
飯岡まちおこし実行委員会（旭市）	旭市	台風被害の旭市民活力再生のため、音楽愛好家（老若男女障がい者）と共に音楽を通して復興活動を実施する「復興祈願音楽ライブ」の開催	100,000円

富津のまちづくりを考える会（富津市）	富津市	災害体験を記録に残し、この経験を今後の災害にも活かすために「富津の台風体験集」を作成する	100,000 円
千葉ボラサポート（南房総市）	南房総市	台風 15 号、19 号による被災者のための災害復興支援活動 ブルーシート再展張等資材保管のための倉庫建設	100,000 円
特定非営利活動法人 NPO 富里のホタル（富里市）	富里市	2019 台風・豪雨被害からの里山再生プロジェクト	100,000 円

・災害発生から当法人の取り組みとして、発災直後から NPO、自治体、社協にヒアリングを実施、支援関係者情報共有会や報告会にも参加し、被災地のニーズ把握、情報収集を行いました。それらをもとに、災害復旧活動、復興活動を支える災害支援基金の創設、災害支援ニーズに対応するための助成事業の実施、その他物資仲介、活動団体間の情報仲介の実施を行いました。（現地訪問 6 回、情報共有会参加 5 回）

（3）冠基金プログラム

ア. さくら基金（継続）

児童養護施設から社会に巣立つ子どもたちが不安を抱えることなく、自立した生活を送ることができるように、支援団体が実施するキャリア支援事業やアフターケア事業などに活用される基金であり、今年度は寄付募集とプログラム企画立案のためのヒアリングを行いました。

イ. 中央ろうきん 2019 千葉県台風・豪雨災害支援基金（新規）

中央労働金庫、中央労働金庫労働組合からの寄付を原資に「中央ろうきん 2019 千葉県台風・豪雨災害支援基金（特別枠）」を設け、公募、選考を経て、被災地支援活動 5 事業に助成を実施しました。

団体名・所在地	主な活動地域	活動内容	助成金額
特定非営利活動法人ディーブデモクラシー・センター（鴨川市）	富津市・鋸南町	地域のニーズを把握し、長期化する支援のあり方を構築するための集落全戸調査事業	200,000 円
つなぐ CHIBA プロジェクト（千葉市）	南房総市市・鴨川市	被災者と支援者をつなぐ「ボランティアバス」の運行	200,000 円
災害ボランティア団体らしんばん（佐倉市）	千葉県南部	千葉県南部における継続的な災害復興支援ボランティア事業	200,000 円
ボランティアグループ B3（南房総市）	鋸南町	被災者支援とボランティア研修のための専門講師招致事業	200,000 円
特定非営利活動法人おせっ会（館山市）	館山市	おせっ会復興事業ボランティア参加者負担軽減	100,000 円

2. 資源仲介事業

公益活動を支援したい個人、企業、団体等からの資金以外の各種資源（人材、物品、情報など）を市民公益活動団体に仲介する事業であり、今年度は以下の事業を行ないました。

（1）多様な寄付の機会の提供

- ・寄付付き自動販売機（支援バンダー）：新規設置 1 台（合計 7 台）
- ・買取寄付プログラム「カイトリ」：実績なし
- ・ブックオフオンライン・ボランティア宅本便：寄付件数 4 件（本プログラムは 3 月末日をもって終了）

- ・使用済みインクカートリッジ回収ボックス設置：8ヶ所

これらの寄付金は公益目的事業運営として一般寄付金になります。

- ・募金箱の設置：1ヶ所

- ・寄付付き商品：認定NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所（茨城県）発行の英単語カレンダー、ひらがなれんしゅうちょう等をパルシステム千葉、生活クラブ生協の組合員向けに販売しました。

これらの寄付金は「子どもの今と未来を支える基金」への寄付になります。

(2) 情報共有の場づくり

ア. 助成事業成果報告会

12月14日、「ちばのWA助成事業成果報告会&交流会 2019」を開催しました。

2018年度「子どもの今と未来を支える基金」助成団体である、NPO法人Art for Children's SHINE、NPO法人ほっとすペース・つき、松戸市10代向け情報発信・調査研究プロジェクトの3団体と事業指定助成プログラム助成団体である、NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちばが助成事業成果報告を行いました。また、当財団からは「2019千葉県台風・豪雨災害支援基金」の助成状況について報告を行いました。

一人一人の寄付金が地域でどのように活かされているのか考える機会となりました。

イ. 松戸コレクティブインパクト事業「孤育てを防ぎ、子育てを地域で支え合うプロジェクト」

多様なセクターが枠を越え互いに強みやノウハウを持ち寄り、同時に社会課題に対する働きかけを行うことにより、課題解決や大規模な社会変革を推進することを目的とした事業で、2016年度より実施しています。

今年度は、当事者に情報が届くウェブサイト「つながるリンク」の開設、行政を含む支援者等による円卓会議、報告会を実施しました。

3. 助成業務等支援事業

(1) 「千葉日報子どもの育ち応援基金」資金助成に関する業務委託（受託事業）

公益財団法人千葉日報福祉事業団では、子どもの育ちを応援する団体の活動を支援するため、2018年度、3年間の期限付きで本基金を設立しました。資金助成に関する業務について当財団が受託しています。

今年度は、2020年度助成に係る募集要項・申請書の策定、県内3か所での募集説明会、個別相談、申請受付、選考会の運営等を実施しました。3月に予定していた贈呈式は新型コロナウイルス感染防止のため中止となりました。

4. 他機関等との連携

(1) 一般社団法人全国コミュニティ財団協会

全国コミュニティ財団協会は、コミュニティ財団の健全な発展を通じて、市民社会のより一層の成熟と市民が主体的に取り組む地域社会の課題解決を促し持続可能性を高め、公共の利益を増進することを目的として設立をしたコミュニティ財団の全国組織です。

当財団は、加盟団体であり、当財団の専務理事・事務局長が協会の理事（非常勤）を務めています。

今年度は、以下の事業に参画しました。

- ・年次大会分科会での報告（災害時における現場のニーズに即して支援金を仲介する役割を果たせるか）
- ・理事会への参加

また、今年度は災害時の対応、特設サイト構築、寄付募集等について、全面協力をいただきました。

(2) 一般社団法人全国レガシーギフト協会

遺贈寄付、資産寄付への関心が高まりつつある昨今、遺贈寄付が本人の望む最適な形で実現し、寄付した財産が地域の未来資産となり世代を超えて継承される社会を実現するために、全国的な仕組みとして全国レガシーギフト協会が2016年11月に設立されました。当財団は加盟団体として今年度以下の事業に参画しました。

- ・遺贈寄付に関する相談窓口を設置し、対応。相談件数は1件。
- ・土業向け&NPO向け遺贈寄付セミナーを本協会在京5団体共催により開催
- ・遺贈寄付相談員研修への参加

(3) ちばソーシャルビジネス支援ネットワーク

本ネットワークは、地域社会の課題をビジネスの手法で解決するソーシャルビジネス事業者を支援するため、主に千葉県内の金融機関5機関と中間支援組織により2017年1月に発足した組織です。

今年度は10月18日にソーシャルビジネス事業者、創業を検討している方を対象に相談会を開催し、6件の相談に対応しました。

(4) 一般財団法人非営利組織評価センター「併走支援委託事業」(受託事業)

NPO等市民公益活動団体の信頼性と透明性の向上を図り社会と共有することで、より充実した支援環境を構築することを目的として非営利組織評価センターと協働し、組織評価・認証制度の普及促進を図りました。9月25日に「NPOのための助成金活用セミナー&第三者組織評価制度説明会」を開催、12名の参加がありました。第三者組織評価のコーディネータは1団体でした。

(5) その他

ア. 啓発事業・講師派遣

- ・NPO支援の税理士ネットワーク主催の勉強会にて、公益認定申請実務について事例紹介をしました。
- ・うらやす市民大学「事例に学ぶ市民活動」全4回(10/3~11/21)をコーディネートしました。
- ・つながる経済フォーラム千葉世話人会主催「第1回つながる経済フォーラム in 千葉」のリレートークに登壇し、事例報告をしました。

イ. 他機関との連携協働

- ・事務局長が印西市市民活動推進委員会に年6回出席し、主に企画提案型協働事業の審査にあたりました。
- ・被災地で使用したブルーシートでトートバッグ(ブルーシードバッグ)をつくり、ゴミの削減と被災地支援につなげるプロジェクト「BRIDGE CHIBAプロジェクト」にプロジェクトメンバーとして参画しました。メンバーは千葉テレビ放送、グローリア、LOVES COMPANY、ちばぎんハートフル、ちばのWA地域づくり基金。寄付金は「2019千葉県台風・豪雨災害支援基金」を通じて被災地支援活動に助成の予定です。
- ・千葉県内の支援組織、自治体との情報共有を図ることを目的に、千葉県市民活動支援組織ネットワーク会議(千葉県主催)に加盟し、ネットワーク会議に参加しました。

ウ. その他

- ・助成申請案件以外にも NPO 等からの相談対応を随時行いました。

5. 財団運営活動

(1) 情報発信・啓発活動

- ・ホームページ、ブログ、SNS による情報発信を随時行いました。
- ・外部からのヒアリング、視察に随時対応しました。

(2) 資金調達活動

- ・理事を中心に新規個人や法人に対しての寄付依頼、既存寄付者への依頼並びにシェア会議やウェブサイトを活用して呼びかけを行いました。
- ・冠基金や助成業務契約等の依頼活動ができませんでした。

(3) 当財団への寄付

- ・継続的に財団運営を応援してもらう仕組みとしてのサポーター登録の呼びかけを実施しています。今年度は新たに銀行口座自動引き落としのシステムを導入し、マンスリーサポーターの募集を強化しました。その結果、サポーターは 15 名、寄付額は 32 万円となりました。
- ・その他に、当財団事業運営への寄付として約 317 万円の寄付を受領しました。

【法人運営（管理）事業】

1. 機関会議の運営

(1) 評議員会の開催

- ・第 1 回評議員会（2019 年 6 月 13 日 18 時～19 時 35 分 千葉市生涯学習センター）

第 1 号議案 2018 年度事業報告及び附属明細書の承認

第 2 号議案 2018 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認
第 1 号議案 2018 年度事業報告及び計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）並びに財産目録の承認

報告事項 2019 年度事業計画及び予算について、役員の変更について

(2) 理事会の開催

今年度は、9 月 13 日に開催予定だった第 2 回理事会が台風被害対応のため中止となりました。そのため、定例理事会は 3 回、臨時理事会（みなし会議）を 3 回開催しました。

- ・第 1 回理事会（2019 年 5 月 22 日 18 時～22 時 当財団事務所）

第 1 号議案 2018 年度事業報告及び附属明細書の承認

第 2 号議案 2018 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認（監査報告）

第 3 号議案 評議員会の招集

第 4 号議案 「まつどでつながる基金」設置の提案

- 第5号議案 事業指定助成公募について
- 第6号議案 さくら基金公募について
- 第7号議案 休眠預金資金分配団体公募について
- 第8号議案 諸規程の改定及び制定について
- 第9号議案 (一財) 非営利組織評価センター「併走支援委託事業」受託について
- 第10号議案 報告書未提出団体の対応について
- 報告事項 「監事監査規程」について、助成業務等支援事業(千葉日報福祉事業団)事業報告
- ・臨時理事会(2019年7月5日 書面決議)
 - 第1号議案 「子どもの今と未来を支える基金2018年度助成」助成金返金通知に係る件について
- ・臨時理事会(2019年11月29日 書面決議)
 - 第1号議案 中央労働金庫、中央労働金庫労働組合による冠基金寄付の受理と設置の承認について
- ・第2回理事会(2019年12月14日 10時10分～12時10分 多世代交流拠点おおなみこなみ)
 - 第1号議案 諸規程の制定について
 - 第2号議案 2019千葉県台風・豪雨災害支援基金について
 - 第3号議案 今年度事業進捗、運営状況と次年度事業について
- ・臨時理事会(2020年2月20日 書面決議)
 - 第1号議案 冠基金「中央ろうきん2019千葉県台風・豪雨災害支援基金(特別枠)」について、同選考会の選定報告に基づき4団体に総額80万円を助成することの承認について
- ・第3回理事会(2020年3月13日 18時10分～21時15分 当財団事務所)
 - 第1号議案 2020年度事業計画及び収支予算書等について
 - 第2号議案 公益事業区分の追加(変更申請)について
 - 第3号議案 定款変更について(評議員会決議)
 - 第4号議案 諸規程の制定及び改定について
 - 第5号議案 「2019千葉県台風・豪雨災害支援基金」助成について
 - 第6号議案 今年度事業進捗、運営状況について

(3) 監査の実施

- ・監事が全3回の理事会にいずれも出席し、業務監査を実施しました。
- ・2019年5月8日に2018年度の監査を実施し、監査報告書を作成しました。

2. 役員に関する事項

(1) 評議員

今期中の就任、退任はありません。

(2) 理事

木村庸子理事は、一身上の都合により6月18日付で辞任されました。

(3) 監事

今期中の就任、退任はありません。

3. 事務局体制

昨年度と同様、2名（常勤1名、パートタイム1名）が在籍しています。

4. 寄付者等の情報管理（Donor Relationship Management）

個人情報保護方針等に従い、寄付者等財団支援者の情報管理を徹底するとともに、DM等で寄付者への事業・成果報告、コミュニケーションを円滑に行えるよう、Salesforce社のシステムを利用、データベースの適切な管理と活用を行っています。

Salesforce利用にあたっては、Salesforce社や（公財）京都地域創造基金のサポートを受け、効率運用できるよう取り組んでいます。

※Salesforce：CRMクラウドサービスを提供する業界トップのグローバル企業。NPO法人等への無償提供プログラムなどCSRにも積極的に取り組む。<http://www.salesforce.com/jp/>